

1. 気象概況

- 今冬の氷点下 10℃以下は合計 11 日（1 月 6 回・2 月 4 回・3 月 1 回） *最低 1/26 -16.8℃。
- 3 月気象特記
気温：平均気温+1.7℃。高温：3/6 22.4℃、3/18 20.1℃、3/30 21.5℃等。低温：3/22 -6.5℃。
降水量：平年比 42%。旬を通して土壌乾燥が顕著
日照量：平年比 109%（4 月並み）
強風：10m/s 以上 20 日。
- 4 月上旬気象特記
気温：平均気温+4.6℃。高温：4/1 22.8℃、4/2 22.9℃、4/3 23.8℃。低温：4/6 -0.5℃。
降水量：平年比 195%。4/4 9.0 mm、4/7 24.5 mm。土壌乾燥やや回避。
日照量：平年比 88%（3 月中旬並み）
- 降霜：4/12 早朝 5 時 -2.7℃。プラムの一部に被害あり。

2. ふじの開花予想

りんご生育調査（調査地点：平岡若宮）

品 種	場 所	平年	H26	H27	H28
ふ じの開花日	平 岡	5/2	5/2	4/27	4/25



もも類の開花が 4/10 過ぎに確認された。昨年より 8 日程度早い。

暖冬により 2 月から生育が進んでいる。小雪・少雨で経過してきたため、4 月上旬まで土壌乾燥が顕著であった。現在開花中のプラム・ももでは土壌乾燥の影響で開花のバラツキ（パラパラ咲き）が目立つ。他品目の状況を踏まえると、ふじの開花は南部で 4/22 前後、平岡付近で 4/25 前後頃の見通し。開花直前の急激な気温上昇により、開花から満開まで一気に到達する可能性もある。

【地区別のふじ開花予想】*あくまで予想です。

- ◆ 小田中沖：4/22 頃
- ◆ 平岡若宮：4/25 頃
- ◆ 越農免：4/25 頃
- ◆ 赤岩：4/27 頃
- ◆ 岩井沖：4/28 頃

開花とは、目通りの頂芽が 1~2 輪咲いた状態を指す。一般に花の咲き揃いは、開花前が高温・高湿度で推移すると一斉に咲き揃い、低温・乾燥等で推移すると咲き揃いが悪い。

3. 開花期～5月末までの薬剤散布について

【今後の防除予定日】

5月末までは12日間隔、6月以降は15日間隔で薬剤散布を進める。

- ◆ 4/22～30 頃：オンリーワン F2000 倍 + サムコル F5000 倍
- ◆ 5/5～10 頃：アスパイア水和剤 500 倍（ケムシ類対策でフェニックス F4000 倍の加用も可）
- ◆ 5/17～22 頃：フルーツセイバー2000 倍 + モスピラン顆粒水溶剤 4000 倍
- ◆ 6/1～5 頃：アントラコール 500 倍 + スプラサイド 1500 倍

◆ 黒星病の予防散布徹底を！

展葉後の天候不順で、黒星病の一次感染が心配されます。越冬菌からの一次感染は開花期頃がピークです。今後の黒星病感染予防のため、例年以上に早めの予防散布を徹底してください。まずは開花期の薬剤散布を遅れずに進めてください。

◆ マイマイガ多発にご注意を！

マイマイガの卵は山林や街路樹に多く見られ、^{ふか}孵化後風に乗って果樹園に来ます。1 cm以上に大型化してからでは防除は困難になります。開花期の段階から効果のある薬剤（サムコル F やフェニックス F 等）を散布して、密度抑制に努めてください。

◆ うどんこ病感染拡大にご注意を！

ここ数年に急激に増加しているうどんこ病。4～5月が高温・乾燥で推移すると増加する病害のなかでは稀な種類です。つがつ・紅玉等が感染し易い品種ですが、最近はふじにも広がっています。越冬源（白いボケ芽）から健全部へ感染しますので、早めの予防散布を徹底してください。効果薬剤：コロナフロアブル 400 倍、イオウフロアブル 500 倍、フルーツセイバー2,000 倍等。

◆ ナシマルカイガラ防除対策

カイガラムシは6月初旬頃から果実を食害し、被害果は果面に赤い小斑点が出ます。

被害が多い園では、6月上旬の定期散布にカイガラムシ専用薬剤のアプロードFを加用してください。また、防除対応が遅れると、夏季の多発を招くので、の早い段階で密度を低下させることが重要です。被害（寄生）のひどい部分は金ブラシ等での削り落とし作業も進めてください。

◆ サビ果発生に注意

結実後は特に果皮が敏感な時期。気温の高い時間帯に薬剤散布すると、果面にサビ等が発生する恐れがあるので注意してください。

4. 葉面散布について（早期散布がおすすめ！）

早い時期から葉面散布を実施することで、葉の健全化や光合成促進が期待できます。農薬のようにすぐに効果を示すことはありませんが、開花前後頃から随時散布することで、徐々に効果が出てきます。土壤乾燥が続く年度は5月中旬頃から葉に苦土欠乏・マンガン欠乏が多発がし心配されます。用途に合わせて各種資材を活用してください。

葉面散布の効能

- ① 葉が大型化する
- ② 葉の光合成機能が向上する
- ③ 葉色が濃くなる
- ④ 葉に厚みが出る
- ⑤ 結実後の果実の細胞分裂が盛んになる
- ⑥ 肥大促進が図られる
- ⑦ 5月末から不足するカルシウム補給ができる
- ⑧ 苦土・マンガン等を早めに補給でき、葉を健全に維持できる

◆ 4月・5月のお薦め葉面散布資材一覧表

下記の資材はすべて、農薬混用が可能である。

商品名	倍率	効能	包装 単位	薬剤費 ／500 ^{リットル}	使用時期	定期散布 混用
葉友（ようゆう）	2000	光合成促進 花芽充実	1 ^{リットル}	942円	開花前～ 収穫前	○
			4 ^{リットル}	893円		
グリーンデイズ	1000	苦土補給他	1kg	748円	開花期～	○
ビックマグ	1000	苦土の補給	1kg	555円	5月中旬～	○
硫酸マンガン	200	マンガンの補給	1kg	2,430円	5月中旬～	○
グリーントップ	500	苦土補給	2kg	667円	5月中旬～	○
ビビットグリーン	500	光合成促進	5kg	858円	5月中旬～	○
スイカル	1000	カルシウムの補給	1kg	658円	5月中旬～	○
ストピットII	500	カルシウム補給	1kg	725円	5月中旬～	○
セルキープ	1000	カルシウム補給	1 ^{リットル}	725円	5月中旬～	○

薬剤費は目安としてください。

欠乏症状や現地の状況にあわせて選択使用してください。

詳しい使用方法・効能は担当技術員にお問い合わせください。

5. ふじの人工授粉のポイント

人工授粉を実施する時は、気温・湿度・天候等の授粉環境を複合的に考慮する。

- ① 降雨・強風・極端な低温（最高気温 20℃以下）・極端な高温（30℃以上）の日ではできるだけ避ける。
- ② 基本的に開花始めから満開期までが授粉能力が高い。よって開花始めから満開までできるだけ早い時期に実施すると結実率が高くなる。
- ③ 授粉後 3 時間は極端な低温とならないような日を選択すること。
- ④ 粉後に降雨があった場合は、3 時間以上経過していれば大丈夫であるが、3 時間以内に降雨があった場合は再度やりなおすこと。
- ⑤ 土壌乾燥状態が続くと開花が揃わない傾向がある。土壌乾燥が著しい場合は、開花予定の 10 日前（4/15～）から定期的な灌水を実施する。
- ⑥ 貯蔵花粉や輸入花粉を使用する場合は、使用予定の 5 日前から徐々に湿度にならしていく。保管中は超乾燥状態になっているので、花粉にある程度の湿り気がないと、発芽率落ちるので注意する。

【受粉環境整備について】

ふじの開花を迎える前に、人工授粉用の花粉を準備するとともに、受粉環境を整備することが重要となります。大きな花が咲き揃うように下記を参考に整備を進めましょう！

- ① 土壌は乾燥していませんか？
- ② 定期的なかん水は実施していますか？
- ③ 余分な枝（芽）はありませんか？
- ④ 日光は充分当たっていますか？
- ⑤ 開花予定日はいつですか？
- ⑥ 使用する花粉は十分湿度にならしてありますか？

6. りんごの交雑和合性について

りんごは自家不和合性が強い品目である。主力のふじについては、人工授粉不徹底が原因の変形果（種入り不足）が顕著に見られる。よって、ふじと交雑和合品種をよく確認し、徹底的に実施すること！

（参考）品種別の交雑和合性

♀	ふじ	秋映	シナノ スイート	シナノ ゴールド	メイポール
♂ 秋映	○	×	○	×	○
シナノスイート	○	○	×	○	○
シナノゴールド	○	×	○	×	○

7. 薬剤敵花について（使用の際は担当技術員まで）

過剰摘花の恐れがあるので人工授粉実施数日後が前提

① 石灰硫黄合剤（成分：多硫化カルシウム 27.5%）

希釈倍率	使用時期	使用回数	留意点
100～120 倍	満開後	2 回	・満開以前が、過剰落花となるので散布しない ・極端な低温・高温時は散布しない

② エコルーキー（成分：蟻酸カルシウム 98.0%）

希釈倍率	使用時期	使用回数	留意点
100～150 倍	満開日とその 2～3 日後	2 回以内	・頂花満開時とえき芽満開時に実施する ・極端な低温・高温時は散布しない

8. 増量剤使用について（石松子 @894 円／80 g 入り）

石松子を増量剤として利用する場合は下記を参考にしてください。

- ◆ 当用花粉は 5～10 倍
- ◆ 貯蔵花粉は 3～5 倍程度
- ◆ 使用例

当用花粉 25 g に対して石松子 240 g（3 本）…約 10 倍

貯蔵花粉 25 g に対して石松子 80 g（1 本）…約 3 倍